

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2025

Winter

圧倒的な大自然
アイスランド

第二特集

日本被団協

ノーベル平和賞受賞 記念対談

[発行] (株) ジャングレイス



自然が創り出した奇跡 アイスランド

北大西洋に浮かぶ島国、アイスランド。ここは自然が創り出した奇跡の舞台です。大地の鼓動を感じる火山、湯けむり立ちのぼる地熱の温泉、ダイナミックな滝や間欠泉、夜空を彩るオーロラの輝きなど、訪れる先々で地球の神秘を感じることができるでしょう。今まで見たことのない世界が広がる旅へ、アイスランドで一生忘れられない体験をどうぞ。

ICELAND Reykjavík

GLOBAL VOYAGE 2025 Winter

CONTENTS

特集

自然が創り出した奇跡

アイスランド…………… P3

大地の裂け目や黄金の滝、
絶景の宝庫ゴールデンサークル…………… P4

地球にやさしいエネルギー国家
自然の力を最大限活用…………… P6

アイスランドの玄関ロレイキャビク
自然と文化のハーモニー…………… P8

船上から楽しむ幻想の世界
唯一無二のオーロラ体験…………… P10

船内のおすすめ[サイドメニュー]…………… P12

第二特集

日本被団協
ノーベル平和賞受賞 記念対談…………… P14

PEACE BOAT ACTIVITIES…………… P18



表紙の写真
幅約70m、落差約30mの「グトルフォスの滝」。氷河が溶けた大量の水が落ちていく壮大な景色。

大地の裂け目や黄金の滝、絶景の宝庫 ゴールデンサークル

火山活動が生み出した間欠泉、歴史の舞台にもなった壮大な国立公園、そして目を奪うほどの迫力を誇るグトルフォスの滝。ゴールデンサークルは、アイスランドの自然の魅力が凝縮された、人気の高い観光エリアです。首都レイキャビクからのアクセスも良く、多様で圧倒的な自然が展開されています。ここでしか味わえない絶景に何度も息を呑むことでしょう。



地球の大陸プレートの割れ目を見られるのは世界に2つだけ。そのひとつが「シンクヴェトリル国立公園」。

「地球の裂け目」を歩く 「シンクヴェトリル国立公園」

世界遺産に登録されている「シンクヴェトリル国立公園」は、北米プレートとユーラシアプレートの境界にあり、プレートが引つ張り合うことで生まれる大地の裂け目を眺めることができます。裂け目のエリアは遊歩道になり散策もでき、切り立った断崖と独特の地形が眼前に迫ります。またこの公園は930年、世界最古の議会「アルシング」が設立され、アイスランドの民主主義の歴史が刻まれた地としても知られています。

公園内は手つかずの大自然が魅力で静かな湖、草原、滝など、多彩な景観が続きます。なかでも「シルフラ」という泉は透明度が高く、青く澄んだ水面が美しく広がります。水中の透明度は世界屈指といわれ、大地の裂け目を見ながらダイビングができるスポットとしても人気です。



プレートの裂け目に地下水が溜まっている「シルフラ」。澄んだ青い水が特徴。



自然が織りなすエンターテインメントである間欠泉。



氷河が溶け出したダイナミックな滝「グトルフォスの滝」。

大地の息吹を体感できる場所「ゲイシール間欠泉」

ゴールデンサークルを代表する自然の奇跡「ゲイシール間欠泉」。その名が英語の「間欠泉」の語源にもなったほど世界的に知られています。地球内部に潜むエネルギーを目で、耳で、そして肌で感じられる特別な場所です。地熱の熱気と湯けむりが漂う独特の雰囲気があるエリアには、大小の間欠泉が点在。なかでも「ストロツクル間欠泉」は数分ごとに高さ20〜30メートルの巨大なお湯の柱を吹き出し、人々から歓声が沸き上がります。エリア最大の「グレートゲイシール間欠泉」ではときに60メートルもの高さに熱湯が噴出し、自然の力強さや神秘をより感じることができます。



1:間欠泉は噴出する前に少しずつ液面が盛り上がり泡が出てくる。その後凸レンズのように膨らんで吹き上がる。2:間欠泉は地下水がマグマに熱され熱湯や水蒸気として地上に噴出する自然現象。

黄金色に輝く水しぶき「グトルフォスの滝」

グトルフォスはアイスランド語で「黄金の滝」という意味です。この名は、晴れた日に太陽の光を浴びて水しぶきが金色に輝く様子から名付けられました。滝の水は、遠くラングヨークトル氷河から流れ出し、谷底へと轟音を立てて落ちていきます。約30メートルの高さを落下していく迫力と美しさは訪れる人々を圧倒します。一時期、開発の波が押し寄せましたが地元の人々の努力で守られた歴史もある自然遺産です。滝の近くには遊歩道が整備され、さまざまな角度からこの自然の驚異を堪能できます。移動することに変化する表情もぜひ楽しんでください。



3:春から夏にかけて氷河が溶ける水量が増しさらにダイナミックな景観になり、滝の白さと周辺の緑のコントラストが美しい。4:展望台まで整備されている遊歩道を歩くとさまざまな角度から自然の驚異を堪能できる。



3



5



6



4

3:アイスランドの電力需要の大部分を担う「ネーシャヴェトリル地熱発電所」。4:首都レイキャビクを含む多くの地域の暖房や温水供給を担う「ヘトリスハイジ発電所」。5:「ヘトリスハイジ発電所」を見学できるガイドツアーも実施されている。6:温水を各地へ供給する地熱温水パイプ。



地熱は安定した持続可能なエネルギーでアイスランドのエネルギー需要の大部分を賄える。

世界が注目する地熱エネルギー大国

アイスランドの地熱発電は、安全性の高さと環境へのやさしさで、世界中から注目を集め、各国から専門家が視察に訪れています。地熱発電は、地中の熱エネルギーを活用して電力を生み出す仕組みで、化石燃料を使用しないため温室効果ガスの排出が極めて少ないのが特徴です。さらにアイスランドでは地熱エネルギーの採取と利用において厳しい環境基準を設けており、地震や噴火といった火山活動の影響を最小限に抑える技術を進化させています。

イジ発電所は、レイキャビク近郊に位置し、電力と温水の供給を同時に行っています。アイスランド国内の約10%の電力需要を賄い、また家庭や都市インフラに温水を供給しています。ネーシャヴェトリル地熱発電所は国内最大の地熱発電所で、電力供給だけでなく、環境への配慮も徹底されています。特に排熱の利用効率が高く、地域住民への暖房供給や温室農業の促進に大きく貢献しています。これらの発電所は、再生可能エネルギーの重要性を示し、アイスランドの自然環境保護と経済発展の両立を支えています。

地球にやさしいエネルギー国家 自然の力を最大限活用

アイスランドは、火山と氷河に囲まれた独自の自然環境を活かし、再生可能エネルギーを最大限に利用しています。地熱発電では地下の熱エネルギーを、また水力発電では豊富な河川を活用し、環境負荷の少ない電力を供給。自然と共生する社会を築いています。



アイスランドは、地熱と水力という自然のエネルギーを活用したクリーンエネルギーの先進国です。首都レイキャビクでは100年近く前から温水を暖房用に利用してきました。国全体が火山活動による地熱エネルギーの恩恵を受けており、水力発電も加えると国内の電力のほぼ100%を再生可能エネルギーで賄っています。これは豊富な地熱資源もさることながら、政府や市民が再生可能エネルギー導入に高い意識を持つてきたことの表れです。特に地熱発電は、火山活動が活発な土地ならではの活用技術を有し、産業や日常生活のエネルギー供給だけでなく、観光地の温泉やスパでも利用されています。世界中が再生可能エネルギー導入を進めているなか、アイスランドは持続可能な社会を築くエコロジーマodelとなっています。



1:大地から湯気がモクモクと立ち上がっている景色を各地で見ることができます。2:地熱は安定した持続可能なエネルギーでアイスランドのエネルギー需要の大部分を賄える。

個性的なラグーンで特別な癒しのひとときを



世界最大級の露天風呂「ブルーラグーン」。アイスランドのシンボルともいえる。

地熱の恵みを体感できるのがラグーンスパ。アイスランドには個性豊かなラグーンスパが点在します。火山活動による地熱で温められた温泉水は、豊富なミネラルを含み、訪れる人々に癒しと活力を与えます。世界的に有名なブルーラグーンは、乳白色の温泉とラグジュアリーな施設で非日常の世界を楽しめる人気スポット。歴史を感じさせるシークレットラグーンは、素朴で自然な雰囲気の魅力でのんびり過ごすには格別で、地元の人々にも愛されています。スカイラグーンは、北大西洋を一望できる絶景の露天風呂が圧巻。雄大な海と空を眺めながら贅沢なひとときを過ごせます。



7



8



9

7:その起源は1891年にさかのぼるといわれ、大地に囲まれた大自然のなかに沸き立つ天然温泉「シークレットラグーン」。8:2021年にオープンした「スカイラグーン」はサウナや水風呂も整っている。9:ラグーンスパは大自然との調和を感じさせてくれる特別な場所。



北欧の落ち着いた小さな街のなかに多彩な観光スポットがあるレイキャビク。



1986年にアメリカのレーガン大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が会談した「ホフディ・ハウス」。



アイスランドの歴史や生き物の展示などがあがる「ペルラン博物館」。



4: 港町でもあるレイキャビクではシーフード料理も堪能できる。5: アイスランドは国全体で水産業が盛ん。

1: ロイガヴェーグル通りにはお洒落なカフェやショップが建ち並び。2: ストリートアートの街らしく、通りのゲートは自転車のデザイン。3: 土産物はもちろんアイスランドブランドの洋服なども揃っていてショッピングに最適。



アイスランドではLGBTQ+の多様性を祝福し、毎年大規模なプライドパレードが開催されます。象徴カラーのレインボーに塗られたロイガヴェーグル通り。

アイスランドの玄関口レイキャビク 自然と文化のハーモニー

レイキャビクはアイスランドの首都。その名の由来は「煙の湾」とされ、かつて地熱から立ち上る蒸気を見た初期の定住者が名付けたといわれています。同国最大の都市ですが、その規模は非常にコンパクトで街全体に心あたたまる雰囲気が漂っています。街を散策しながら、自然の美しさと洗練された都市文化を楽しんでください。



レイキャビクのランドマーク高さ73メートルの「ハットルグリムス教会」。



伝統的な手作り技術が人気のウール製品。

アイスランド伝統の味、ラム肉のスープ。

新鮮なサワードブレッドとスモークサーモンの一皿。

数々の有名人が買い求めたことでも知られるホットドッグ。

アイスランド土産の定番の一つ、バイキングのスノードーム。

地元の工芸品、石でできた人形。

がら一息つくのも楽しい時間です。レイキャビクではグルメも満喫できます。ロブスターやサーモンをはじめ港町ならではの新鮮な魚介類を使った料理や、自然放牧した羊を使った伝統的なラム料理、さらに「世界一美味しいホットドッグ」と称される名物は、地元民から観光客にまで愛されています。

ショッピングを楽しむなら、街の中心にあるロイガヴェーグル通りへ。地元の商品やデザイン雑貨、アパレルショップが並びます。北欧風の洗練されたカフェでアイスランドのスイーツを食べながら一息つくのも楽しい時間です。レイキャビクではグルメも満喫できます。ロブスターやサーモンをはじめ港町ならではの新鮮な魚介類を使った料理や、自然放牧した羊を使った伝統的なラム料理、さらに「世界一美味しいホットドッグ」と称される名物は、地元民から観光客にまで愛されています。

ショッピングを楽しむなら、街の中心にあるロイガヴェーグル通りへ。地元の商品やデザイン雑貨、アパレルショップが並びます。北欧風の洗練されたカフェでアイスランドのスイーツを食べながら一息つくのも楽しい時間です。レイキャビクではグルメも満喫できます。ロブスターやサーモンをはじめ港町ならではの新鮮な魚介類を使った料理や、自然放牧した羊を使った伝統的なラム料理、さらに「世界一美味しいホットドッグ」と称される名物は、地元民から観光客にまで愛されています。

街の中心部では、北欧らしいカラフルな家々が並び、訪れる人々を歓迎してくれます。またストリートアートも点在し独特のエネルギーを感じられます。目を引くのは、レイキャビクのシンボルともいえる「ハットルグリムス教会」です。このユニークなデザインは、アイスランドの火山地形をモチーフに設計されました。教会の塔に登れば、街の家並みと、その先に広がる海と山々を360度のパノラマで楽しむことができます。



夜空に魔法がかけられたかのような大自然が生み出す神秘的な光のショー。



広がる海と星空の下、オーロラが舞う幻想的な夜を体験。

船上から楽しむ幻想の世界 唯一無二のオーロラ体験

北緯60度から70度。オーロラベルトと呼ばれる一帯は、文字通りオーロラ観賞に最適のエリアです。アイスランドは国土の大半がこの圏内にあり、ピースボートクルーズにおいても約一週間かけてオーロラベルトを航行します。過去のクルーズでは頻繁にオーロラと遭遇。特に昨年のVoyage118では「ピースボートクルーズ史上最大のオーロラ」との出会いがありました。大自然が生み出す神秘的な光のショーは、一生の思い出になることでしょう。

アイスランドといえば、その大自然のなかでも特にオーロラ観賞が人気です。ピースボートクルーズでは約一週間のあいだでオーロラを見るチャンスは5回前後。オーロラ水先案内人が米航空宇宙局（NASA）などの配信するデータや現地のリアルタイムな情報、雲の動きなどを分析し出現を予測し航路を調整します。

アイスランド近海をゆつたりと進むなか、誰もがワクワク、ドキドキしながらその時を待ちます。オーロラ出現のアナウンスが流れたら、何はともあれデッキへ。見上げれば、まるで天空のダンスが始まったかのように、緑や紫の光のカーテンが流れ、揺らめきます。ときには赤やオレンジの光も広がります。その光景は、広大な海と星空のコントラストに包まれ、船上という特別な視点から二層の感動をもたらします。心ゆくまで幻想的な世界を堪能できるひとときは、まさに「自然から贈られた奇跡」といえます。

特に、昨年のVoyage118では、かつてないほどオーロラが出現しました。特筆すべきは、オーロラが空二面に広がり、360度のパノラマビューが楽しめた夜。この希少な現象に出会えたのは、クルーズだからこそ。参加者から

「オーロラが爆発した」という声が上がったことからデッキ上での興奮も想像できます。このほかにも「この世のものとは思えなかった」「奇跡とはまさにこのこと」「宇宙を感じた」といった感想を聞くこともできました。

神秘と出会える幸運に恵まれれば、その美しさは一生まぶたの裏に焼き付けられることでしょう。



1000人を超える乗船者、スタッフとともに一体感をもってオーロラを体験するのは感動的。息を呑む人、歓声をあげる人、撮影に夢中になる人。それぞれに特別なひとときです。



ピースボートでは、事前に船内で行われるオーロラに関するセミナーや観賞ガイドが充実しています。オーロラの発生メカニズムや観測の歴史を学ぶことで、目の前の光景がさらに深く心に刻まれます。



●カフェスナック (焼きたてワッフル、クッキー、クロワッサンサンドetc.)

5階にあるインターナショナルカフェでは、コーヒー紅茶のおともにぴったりなメニューをご用意しています。焼きたてワッフル、クッキー、マフィンといったスナックや、小腹を満たすサンドイッチなど。メニューは日替わりですが、その場で作るホットサンドや、時々登場するおにぎりは人気メニュー。あとで食べるおやつ用にテイクアウトも可能なので、通りすがりにショーケースをチェックする人も多いそう。ぜひお立ち寄りください。



インターナショナルカフェ



●デザート

14階のレストラン、ホライゾンコート内のデザートコーナー(アムレット)では、多種類のデザートをご用意しています。ケーキやムース、プディング、マフィンなど定番のものから世界の食材を使ったデザートまで、多種多様なメニューが日替わりで登場します。



アムレット



●手づくりピザ

8階にあるシェアラウンジでは、焼きたてのピザをご用意しています。数種類の日替わりメニューからお好みの味をお選びください。デッキにテイクアウトするのもおすすめ。



シェアラウンジ



●バニラアイスクリーム

12階デッキにあるアイスクリームバーでは、バニラアイスが無料提供されています。プール後のひと休みに、デッキで読書のおともにも。海を見ながらお楽しみください。



ニュージーランドアイスバー



船内のおすすめ [サイドメニュー]

パシフィックワールド号の船内では、2つのレストランで提供している朝昼晩の食事だけではなく、他のスペースにも楽しんでいただけるグルメメニューがたくさんあります。もちろん有料のハイクラスメニューも数多くご提供しておりますが、今回は、乗客にファンの多いという「すべて無料で楽しめる、船内のおすすめサイドメニュー」にスポットを当ててご紹介します。



日本被団協 ノーベル平和賞受賞記念対談

昨年のノーベル平和賞が日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）へ授与されました。国内外で被爆の実相を語り、核兵器廃絶を訴えてきた活動は、核兵器の使用は容認できないという国際規範の形成に、大きく貢献するものと評価されました。ノーベル平和賞を祝して、日本被団協代表委員の田中熙巳さんと2008年から「ヒバクシャ地球一周証言の航海」（通称…おりづるプロジェクト）に取り組んできたピースボートの渡辺里香さんとの記念対談をお届けします。



日本原水爆被害者団体協議会
代表委員

田中 熙巳さん
TANAKA Terumi

田中さんご自身は1945年8月9日、長崎市の自宅で被爆されました。長年にわたり国内外での証言、国際会議での発言を通して核兵器廃絶に向けて積極的に活動が続けています。水先案内人としてピースボートクルーズにも乗船されています。

日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）

&
おりづるプロジェクト



田中熙巳さんが乗船したVoyage117クルーズ横浜出航の日。

このたびはノーベル平和賞受賞おめでとうございます。日本被団協代表委員として受賞をどのように受けとめましたか。

田中 受賞を聞いたときは信じられない思いでした。友人からお祝いの連絡が次々と入り、じわじわと喜びが湧きました。今回の受賞は、現在の厳しい核情勢において被爆者たちに役割を果たして欲しいという思いがノーベル委員会にあったと思います。また日本被団協としては、長く活動を続けてこられた先輩方が大勢いて、差別や偏見と戦い、健康の問題も抱えながら国内外で体験を語ってきたことが浸透し、今につながっています。亡くなられた先輩たちに感謝し、良いご報告ができ嬉しく思っています。

渡辺 私たちも日本被団協のノーベル平和賞の受賞を心から嬉しく思っています。ピースボートも長年にわたり核兵器廃絶を訴えてきました。「おりづるプロジェクト」では170名を超える広島・長崎の被爆者の方々と船旅を通して世界各地で証言会を開いてきました。被爆者の方々の生き様や証言に触れた世界中の人々が大きな勇気を受け取り、その思いを行動に変えていく姿

を何度も目の当たりにしてきました。ですから、日本被団協の証言活動が、「核兵器を使つてはならない」という国際規範をつくるうえで大きな役割を果たしていると感じています。

ノーベル委員会のフリードネス委員長は日本被団協のノーベル平和賞受賞において、とても深い敬意をもって受賞理由を語り、活動を評価しました。その点についてお感じになったことがあればお願いします。

田中 フリードネス委員長は「ヒバクシャ」という日本語を使い、広島と長崎の被爆者たちは草の根の運動で核兵器のない世界の実現のために努力し、核

兵器が二度と使われてはならないと証言を続けてきた、と評価してくれました。日本被団協という組織、活動を良く理解してくれていると思いましたが、今回の受賞で日本の被爆者を知らない国外の人たちも関心をもってくれ、と思うのも励みになります。

渡辺 ノーベル委員会は平和賞授与の理由として日本被団協が膨大な証言を提出し決議やアピールを世界中で行ない、人々を鼓舞し教育し「核兵器のタブー」の維持に貢献したことを挙げています。核兵器をめぐる情勢が厳しいときも、つらい記憶を思い出し、キツい体に鞭打ちながら被爆者の方々は「核兵器は絶対悪だ」と訴え続けました。

それを私たちはしっかりと受け継いでいなくてはと思います。

改めて、日本被団協の活動内容についてご紹介ください。

田中 日本被団協は、広島や長崎で被爆した人たちの全国組織で、原爆投下から11年後の1956年に結成されました。当時、日本のマグロ漁船がアメリカの水爆実験で被爆したことがきっかけで国内に原水爆禁止運動が高まりを見せました。そこから68年間、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴え、また被爆者への援護と原爆被害への日本の国家補償を求める運動が続けています。



渡辺里香

WATANABE Rika

2008年より被爆者の証言通訳を担当しつつ証言会などをコーディネート。2023年よりヒバクシャ地球一周証言の航海（おりづるプロジェクト）のディレクター



2017年はICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)にノーベル平和賞が授与された。

これまでの日本被団協とおりづるプロジェクトの連携についてご紹介ください。

渡辺 おりづるプロジェクトは毎回、日本被団協に後援していただき活動を続けてきましたし、日本被団協に所属されている多くの方にも乗船いただきました。田中さんもお一人で、水先案内人として乗船いただいたこともあり、昨年4月にはおりづるプロジェクトに参加いただきました。2017年の核兵器廃絶キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞受賞には日本被団協の活動もその一端を担っていたわけです。

田中 ピースボートが長年、船旅を通じて世界各地で被爆者の証言会を実施し



てきたことに感謝と敬意を表します。私も昨年の春に乗船して被爆体験と戦争に突き進んでいた当時の日本の様子を話させていただきました。今回も若者たちをはじめ多くの方と直接会い、語り合うことができ、有意義な日々を過ごすことができました。私自身は生きている限り原爆による被害の実態を伝えていきます。

先ほど、渡辺さんは日本被団協の姿勢やメッセージを受け継いでいくと話されましたが、具体的に取組まれている活動はありますか。

渡辺 おりづるプロジェクトもそうですが、ほかにも2019年からは「核兵器



広島-ICANアカデミー2024参加者

と安全保障を学ぶ広島ICANアカデミー」で、核兵器廃絶を自分の問題として捉える若者の育成に取り組んでいます。これは広島県とICANとの

共催でピースボートはICANの国際運営グループとしてアカデミーの企画運営を担当しています。これまで45カ国と地域から156人の若者が参加し、昨年11月にも20人の若者が参加した4日間のプログラムを通して広島や核兵器について理解を深めました。ここでももちろん日本被団協のメンバーにもご協力いただいています。被爆者に直接会い、広島を自分の心で感じたアカデミー卒業生たちが、将来世界平和に貢献しグローバルに活動するリーダーとなることを目指しています。

被爆から約80年、本誌読者のピースボート乗船予定の方へ核兵器廃絶のメッセージをお願いします。

渡辺 日本被団協がノーベル平和賞を受賞した一方で、戦争体験や被爆体験は風化し、核抑止力の強化や核保有を口にする政治家も増えています。日本が核兵器禁止条約に署名・批准するために、私たちは被爆者とともに核兵器のない



平和で持続可能な世界の実現に向けて歩みが続けます。多くの皆さまのご賛同、ご協力をお願いいたします。
田中 被爆者が証言を続けてきたことがノーベル平和賞の受賞理由になり、私たちの証言が核の使用の抑止力になったと思います。今回の受賞で日本被団協が、被爆の実態というものが注目されたとありますが、被爆者は高齢化し、活動のバトンは二世や若い世代へとつなげ

られようとしています。若い世代とともに活動を継承し、世界から核兵器をなくすために、核兵器禁止条約をもっと広げていきます。この世界に現存する核兵器が人間や動物、環境に及ぼす危険性をみなさんも自分のこととして考えて、私たちの活動を後押しする力になってください。日本が条約に署名、批准していく流れを一緒につくっていくって欲しいと思います。



能登半島地震から一年 輪島市と珠洲市に常駐し 支援活動を継続

「能登半島地震 発災後の動き」
1月2日 P B V スタッフ数名を現地に派遣
1月3日 炊き出し、物資配布開始
2月2日 災害ボランティアの登録開始

「能登半島豪雨 発災後の動き」
9月21日 能登半島豪雨発生
9月22日 能登半島豪雨募金開始
P B V 現地スタッフにて各
地で炊き出し、物資配布、
避難所支援開始

能登半島地震から約9ヶ月半が経った9月21日、被災地に追い打ちをかけるような記録的な大雨による被害が



内でも営業を再開した店舗もあり世界遺産である「揚げ浜式製塩」で塩づくりを行なっている珠洲製塩も営業を

発生し、いまだに復旧作業が続いています。11月22日の発表で能登半島地震の災害関連死は235人になり熊本地震の222人を超えました。P B V は発災から年経った現在も輪島市と珠洲市に常駐して支援活動を行っています。

現地では11月に輪島港で漁が再開され、輪島塗の工程や漆芸作品が鑑賞できる漆美術館も再開しました。珠洲市

輪島市でも9月の豪雨災害で物理的、精神的に大きな負担がのしかかっています。避難所から仮設住宅に移った人もいれば、仮設住宅から避難所へ逆戻りした人もいます。P B V は避難所職員の人手が限られることから輪島市からの要請を受け複数の避難所の運営サポートを行なっています。町野町では町民アルバイトの力も借りて「まちの湯」の運営を継続。町民はじめ工事関係者、行政職員など1日に70〜100人が、癒しのひとときと憩いの場として利用しています。

現地でのこれまでの活動の様子は40以上のメディアに取り上げられています。動画、写真、インタビューなどで紹介されています。アーカイブからも観ることが

できます。ぜひこちらからご覧ください。
<https://pbv.or.jp/media>

今後も引き続き、中期的な支援のために、被災者の生活再建に関わる「コミュニティ形成（サロンの実施など）」や「避難所運営サポート」「備品の提供（仮設備品支援など）」に力を入れていきます。このほか状況に応じて「被災家屋の応急対応・保全」「災害支援のノウハウ提供や支援調整」「災害ボランティアセンター運営サポート」など、他団体と連携して現地のニーズに合わせた支援を実施していきます。

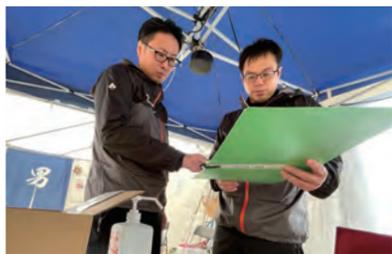
2度にわたる災害による被害は大きく、復旧への道のりは2025年もまだまだ続きます。皆さまにも長期のご支援をお願いいたします。



「揚げ浜式製塩」による塩づくりの珠洲製塩。



FOOBOUR(フーパー)に食品などの物資を補充。



現地に寄り添った支援を話し合いながら継続。

石川県能登半島地震・9月豪雨 PBV活動報告

2024年1月1日に発生した石川県能登半島地震から一年が経ちました。一歩ずつ進み始めていた現地でしたが、9月21日に記録的な豪雨が発生。追い打ちをかける新たな被害が出て、いまだに連日復旧作業が続いています。ピースボート災害支援センター(PBV)は、地震発生の翌日から現地入りし、一年経った現在も輪島市と珠洲市に常駐して支援活動を行っています。



始め、まだ本来の姿とは言えませんが復興・復旧のニュースが入ってくるようになりました。しかし職を失った人、再スタートの目処がたない人、考えても新たな歩の答えが出ない人たちがたくさんいます。P B V では現地常駐伴走型支援で一人ひとりに寄り添った支援を続けていきます。

働を続けています。秋から冬になり食料品や消耗品に加えて冬の物資、備品も必要になっていきます。周辺に食料や日用品の買い物がまだできず、輪島方面のスーパーに続く国道249号線は区間が通行止めで復旧作業が続くなか、物資輸送は重要です。また仮設住宅の建設スケジュールも遅れ、避難所での生活を余儀なくされている人もいます。さらに水道の復旧がまだの避難所では現在も給水による生活が続いています。



継続的なご支援のお願い

2024年 石川県能登半島地震・9月豪雨 緊急支援募金

PBV は引き続き関連団体と連携し、現地のニーズに合わせた支援を行います。長らく支援活動に、継続的なサポートをよろしくお願いいたします。



募金方法

- 郵便振替 ●銀行振込
- クレジットカード
- yahoo!ネット募金
- 携帯料金と一しよに寄付する



お気軽にお問い合わせください

TEL.03-3363-7967 11:00~16:00 土日祝定休

PBV ピースボート
ピースボート
災害支援センター
災害支援センター

[オフィシャルサイト] <https://pbv.or.jp/>

船上百景 [お正月]



船内の華やかな飾り付けが正月ムードを盛り上げる。



人気の風物詩、書き初め。



船上から年賀状を送ろう。

乗船者全員で盛り上がる ハッピーニューイヤー!

「パシフィック・ワールド号」で迎えるお正月は、豪華な飾り付けが特別な雰囲気演出します。船内のメインデッキやホールには、門松やしめ縄、紅白の飾りが配置され、日本の伝統を感じさせる華やかなデコレーションが施されます。カウントダウンパーティでは、デッキが乗船者で埋まり歌やダンスで盛り上がり、年越しの瞬間、盛り上がりは最高潮に。元日の朝は水平線から昇る初日の出を眺め、心新たに一年をスタート。鏡開きやおせち料理やお雑煮を堪能し正月気分を満喫。さらに正月遊びや書き初めをはじめ、幅広い世代が楽しめるイベントも満載。特別な時間を共有することで、乗船者同士の絆も深まること間違いなし。船上で迎える新年の思い出は、一生の宝物になります。

夜明け前の6時20分。アイスランド沖合い。10月の日の出は朝8時と遅い。本船デッキではまだ暗いなかで体操が始まる。そして頭上にはゆらゆらとオーロラがたなびいている――

今号でもご紹介しているクルーズでは、オーロラの下でラジオ体操をするという、なんとも不思議な体験ができたようです。数日にわたって色や形を変えながら出現したオーロラを見た乗客やスタッフは、「想像を超えた天体ショーだった」「このクルーズに乗って良かった」とその感動を伝えてくれました。自分が立っている場所が移動し、世界各地の風光明媚な情景を望むことができます。まさに船旅の醍醐味です。そしていつもと異なる場所や雰囲気の中、なかで恒例の行事を楽しむことができるのも船旅ならではの体験でしょう。現在航海中のクルーズでは2025年のお正月をインド洋のマダガスカルにて迎えます。

そのマダガスカルが舞台にもなっている童話『星の王子さま』に、「大人は、だれも、はじめは子どもだった」という名言が登場します。「船に乗って世界中を巡っていると童心にかえることができる」と聞いたことがありますので、今後乗船される皆さまも、子ども時代のようにワクワクした気持ちでこれから始まる船旅と新年を存分にお楽しみください。本年もどうぞよろしくお願いたします。(N・I)

